

報道関係者各位

2014年5月9日

プレスリリース

株式会社ヒューマ

## ニコニコ超会議3に出展しました

仮想金魚と本物の金魚が混ざり合う

錯覚から得られる驚きを広告に繋げる水槽サイネージ

インターネットを活用した治験マッチングサービス「ボランティアバンク」を運営している株式会社ヒューマ（東京都港区、代表取締役社長：三原西木）のグループ会社であるデジタルブレインは、ニコニコ超会議3に透明ディスプレイ型デジタルサイネージを出展いたしました。



※手前を泳ぐ2つの黒い金魚が前面のディスプレイを泳ぐ仮想金魚です

《背景》

ニコニコ超会議3『超 Ocu fes(オキュフェス)』ブース内にて、最新型VR(仮想現実)装置オキュラスリフトの広告として水槽サイネージを使用いたしました。従来の透明ディスプレイ型サイネージとは違い、動きのあるものを動きのある映像でリンクさせていくことで見る人に広告と気づかせない仕掛けがあります。単純な面白さや斬新さで目を引いた先から広告が流れるという手法を取ることで、視認性を高める工夫が施されています。

本プレスリリースに関するお問い合わせ先

株式会社ヒューマ 〒105-0013 東京都港区浜松町1-27-12 秀和浜松町ビル9階

担当：菅原 TEL：03-3431-1167 FAX：03-3431-1168

## ◆ニコニコ超会議でも常に人が集まっていた水槽サイネージ

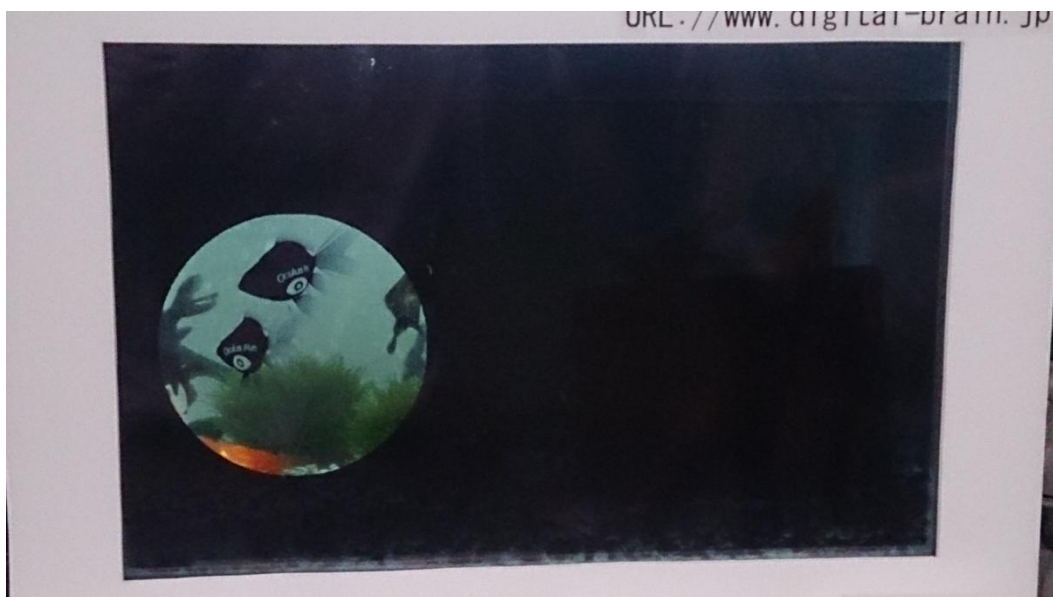
来場者数 12 万人、総ネット視聴者数 500 万とも言われる巨大なエンターテインメントコンテンツの発信会でもあるニコニコ超会議に出展致しました。

超会議のメインストリートに面した場所で水槽サイネージを設置。前面のディスプレイを泳ぐ疑似金魚と、本物の金魚と一緒に泳がせることで、サイネージを水槽だと認識するように取り組みました。本物の金魚のように見せるためには立体的な描写ができるツールが必要となりますので、『Unity (ユニティ)』と呼ばれる主にゲーム製作に用いられるエンジンを使用して作成いたしました。

サブカルチャーの展示会という場所柄、生き物が展示されているということ自体の珍しさもあり、超会議参加者の足が止まることが多い印象でした。参加者が水槽に向かって近づいていくと、中に入っている金魚の一部が不思議な挙動をしていることを発見します。

ただの水槽だと思っていたところに 3 D の疑似金魚が泳いでいることが分ると、参加者の方もサイネージを広告として捉えるのではなく、エンターテインメントのコンテンツとしてより能動的に中身を覗き込みます。今回用意したデモ映像がおおよそ 2 分で 1 回りするものでしたが、興味を抱いた人は 2 回り程度覗き込んでいました。

今回のサイネージコンテンツを企画したのは古典奇術師の藤山晃太郎氏。藤山氏とともに今後も新しいサイネージの使い方を世に提案していきたいと考えております。



※手前を泳ぐ金魚が 3 D の仮想金魚であることを示すためにマークアップ

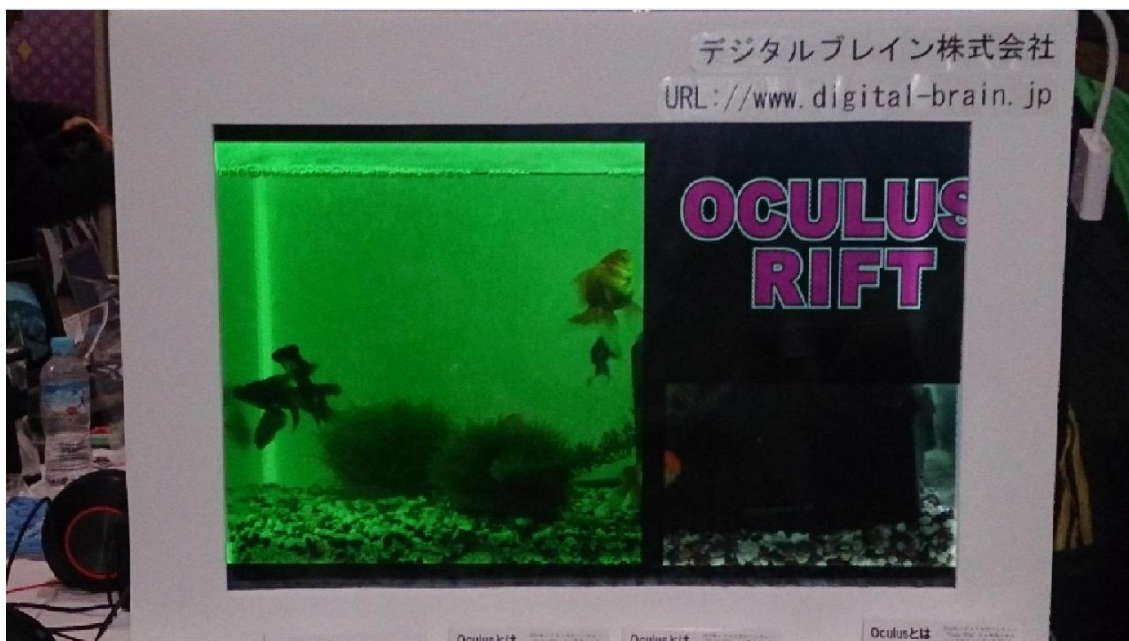
## ◆ 広告までの距離を離してコンテンツに興味をもって貰える工夫

今回の水槽サイネージで工夫した点は主に2つです。

- ① 筐体の形状を生かした錯覚を作る
- ② どこから見ても驚きがあるような仕組み

まず広告ありきのコンテンツには誰も見向きもしないという定義から始めました。そのために透明ディスプレイ型デジタルサイネージの四角い形状を利用することにしました。サイネージ(広告媒体)だと気づかせないための最初の取り組みです。

次に、従来の透明サイネージにあった見る人の視点によって映像と商品との「ズレ」を無くすことを心がけました。従来の映像だと主にサイネージと同じ高さの真正面から見えることで最も演出効果が期待できる宣伝方法が多く、これは見る人の場所によって驚きや感動を損なう可能性が非常に高いものでした。今回の水槽サイネージは文字通り「水」をテーマに取り扱っているので、縦横無尽に泳ぎ回る魚とのコラボレーションはどの角度から見ても十分に驚きを与えられるものとなりました。今回の超会議3では安全性を配慮し台座の高さを低めにしていましたが、高い位置に固定することで、より現実と仮想の区別が付きにくい不思議なコンテンツになる可能性も秘めています。



※仮想金魚の驚きを見せたところで、広告を挟む（右下がオキュラスリフト本体）

## ◆デジタルサイネージコンテンツの今後を考える

今回の水槽サイネージを皮切りに、新しいデジタルサイネージの使い方をどんどん提案していきたいと考えております。具体的には、透明ディスプレイ型のデジタルサイネージと相性の良い3D映像を作成できる『Unity (ユニティ)』を用いたコンテンツの作成を継続するとともに、錯覚や手品をテーマとした広告だと思わせない広告の提案を提案する予定です。新しい提案を進めていくために、デジタルサイネージや透明ディスプレイ(透過ディスプレイ)に興味をお持ちの方とはどんどん話し合いの場を設けて行きます。時には共通の目標を設定し、アイデアの実現を前提とした企画会議を企業や組織、個人の枠組みを超えて行っていきます。

※ご興味のある方はデジタルブレインHPよりメールにてお問い合わせください。

## ●会社概要（株式会社ヒューマ）

会社名：株式会社ヒューマ

所在地：東京都港区浜松町 1-27-12 秀和浜松町ビル 9 階

代表：代表取締役社長 三原西木

設立：2002年10月

事業内容：食品臨床試験(治験)受託、治験被験者支援事業(VOB)、販売促進事業

資本金：5600万円

企業サイト：<http://www.huma-c.co.jp/>

治験マッチングサービス「ボランティアバンク」：<http://www.vob.jp/>

## ●会社概要（デジタルブレイン株式会社）

会社名：デジタルブレイン株式会社

所在地：東京都港区浜松町 1-27-12 秀和浜松町ビル 9 階

代表：代表取締役社長 三原西木

設立：2013年4月

事業内容：屋外用デジタルサイネージ企画・設計・卸販売事業

透明ディスプレイ企画・設計・卸販売事業

デジタルサイネージコンテンツ・映像制作・運用管理・配信事業

広告代理店事業

資本金：1000万円

企業サイト：<http://www.digital-brain.jp/>